

供の知恵には、ぐっとつまる事がある。

× × ×

遠足の印象画をかくことになった。一人だけ紙一杯に、ゴジラとアンギラスの絵をかいている。

「あああ。いけないんだ。先生が緑地帯へいった絵っていったんじゃないか」

「いけないんだ。いけないんだ」

男の子は大さわぎだ。実のところ、みんながこれをかきたい。だからこの際許せないというところ。

「だってさー、僕、バスで帰るとき、ゴジラとアンギラスの看板みたんだもの」

— × × × —

まだ経験は浅いのですが、子供たちの生活の中にあって、一つの事例にぶつかつたとき、或る角度だけから事をみ、事を判断し、事を処理することは、大変危険なことであるという事をしめじみ感じます。

あらゆる角度から子供をみることに、そして理解することは、私たちの第一の仕事であり、望ましい保育が計画される根本資料を得ることであると思っています。

日頃の観察記録の中から、いくつかを拾い出してみました。これからもあらゆる機会に子供たちの観察を続けていこう。

(中央区立城東幼稚園)

### 子どもの眼



あ

過ぎつつある年を省みつつ、私のつたない経験の中から様様な失敗と成功が思い浮かんで参ります。

高橋 芳子



幼児と共に生活する毎日、思いがけない事があります。

何の変化もない様な場面、事柄に付て起る思いがけない事を如何に処理して行くか？ ともすると、こちらの都合や情性で片付けられて了う事、心に計画されていない事丈に、こうした所に失敗がありそうです。しかし又、こんな時こそ忘れがちな子供の心を理解する機会となり得る事が多く、成功への収穫となります。

次にこうした毎日の中から、何かしら感じられた二、三例を記してみましよう。

1. 一学期の或る日のお辨當時、みんなうがいをするまで椅子に座り各々お辨当を出したりしている。私も注文のパンを分け出した頃、未だバスケットの前に、キョトンとした子供がいる

「Oちゃんどうしたの？」と尋ねるとニヤッと机の下に入つて了つた。皆が「ねづみの様だ」と笑つた。私はおかしいなと思つてバスケットを持つてみると軽い。急いでパンを追加して間に合せ、本人もはずかしい乍ら喜んで食べた。所がこんな事が度重なつた。いつも食前間に発見される。でもその日は「辨当ない」と申出てきた。私は一応申出た事をほめ乍ら、うっかり「僕ね朝来た時すぐ言つてね、そしたらみんなのパンと一緒に買つてくるから」と言つた。するとおばあさん子のOちゃんはおばあさんが入れなんだんで、ばあさんが忘れたん」と言う、私はそうさうこの子が忘れたんじやないんだと朝登園してバスケットを置くのもそこそこ直ぐ遊び出すO君の姿と併せてうなづかれた。

2. O君のお辨当が度々入っていない事は例外の様だが、一般的に一年児の家庭は職業的にも商売又共稼ぎのお勤めと多忙な家が多く、殊に子供の日常の身辺の世話に至つては関心が薄い様だ、時間的にも精神的にも余裕が無い様でもある、そこで私は子供達自身が健康に対して関心をもつ様にと希つた。

手洗い、うがい、爪の始末、ちり紙、ハンカチの用意等子供達同志の評価、私自身の実行、日々の励行等で次第に習慣づけられて来た。爪の始末も最初の頃は「家の人忙しいといつて誰もつんでくれんのに」「うち忘れた」「帰つてすぐ言つたのに母

ちゃん用事ばかりして忘れた」といつていた子供達も最近では「ぼくとうちゃんがつんでくれた」「うち自分でつんだんで」「こっちはつめんわ」といつて右手丈をつんで欲しいと差し出す子供も数人ある。右手の爪ばかりつみ乍ら、この手が左の爪をつんだのだなと素晴らしい思いがする。

「手を洗いましう」「蛔虫」などの幻灯もむずかしいだろうと思つていたが割合効果があつた。相当たつてからも時折「虫の卵が風と一緒にとんでくる」とか又「先生かいぐいして歩き乍らたべてると病気の虫やごみがひつつくね」と自分で考えて発表する子供もあり、お辨当の途中で手の申のよこれを見つけて急いで洗い直しに行つた子供もあつた。Y君は手洗いを忘れ勝ちな子供の一人、冬の寒さにひどいひび切れとなつた。「Yちゃんの手はすごいね」と言つと「ほんだつて洗えんのに、いたいわ」といつたその顔は本当に痛そうだ。早速タオルをお湯で湿しよく拭いてメントームをすり込んだ。「お家でも遊んだ後、少し痛いけどしっかり洗つてクリームつけましようね、べたべたにつけると又ほこりが沢山つくから少し丈すり込むのよ」と注意して帰した。それから毎朝「クリームつけた」と黒い甲をみせてくれる。それでも数日たつと大分よくなつた「先生、これ、毎日しよつたらだんだん治つてきた」と子供乍らに美しくなりつつある事がわかり手の甲を大事にさすつて頬をはころばせていた。

お辨当の副食も父母の関心の薄い事を物語っていた。煮豆、かまぼこ、卵、するめの佃煮、コロッケ、等を一品づつ持って来る子供は少くなかった。毎日同じものを続けて持って来る事も少くない。又菓子パンを一つキリで過す事もある。勿論子供達は朝、夕食を家庭で摂るのであるから、お辨当に付てのみ批判し、問題視する必要はない様に思った。しかし友達と一緒にいたく楽しいお辨当を通して何でも残さず食べられる様、又その為にも種々なものを入れて来る様、子供達自身食物から健康成長へも関心を持たせ様と考えた。

先ずおかずは二品以上持って来る事を約束しました。次に自分の嫌なものも時々持って来る事にしました。之で大部分の子供が嫌な野菜類の中、キャベツ、人蔘、ほうれん草がみられる様になりました。その次の段階として皆で動くもの、動かないものに付て話し合い、子供なりに野菜類は放つておいても歩き出したり、およいだりしないから動かないもの、がわかった一寸むづかしいハムやカマボコも肉動物という製造の話で、お肉の様な味だという事になり動くものもわかった。それ以来お辨当を開くと同じ机のお友達同志、動くものと動かないものと二つ入つているという事を喜び合う様になり今ではパンにも必ず牛乳が付く様になった。之れというのも子供達同志、卵はひよっこになって歩き出すという話しをしていた事からヒントを得た考えでした。

3. 二月の春陽を浴びて子供達とボール遊びをしていた時のこと、いつもころがったボールを幾人かで奪い合う、みんなしっかり組みついていて結局ジャンケンをして一人のボールとなる。所がこの場合Aさんがボールを掴んだ瞬間おくれでT君が組みついた。T君の方が少し遠くから走ってきたのだ。T君のボールを追っていた心はAさんが掴んだ時、同時にボールに組みついた筈だ。そしてT君はいつも通りジャンケンを、それよりも自分のボールを望んでいた。それなのに場面をよくみていた子供達が「今のはAさんのボールよ」といった。私も「そうね」といって遊びの続きを急いだ。T君の手はすぐボールを離れたが一人しょんぼり回転塔に乗つて揺れるともなくまわり出した。Aさんが少し早くつかんだのよと肩をゆすぶったが駄目平素から我儘で集団生活に入りにくいT君、私は失敗ったと思ひ、尚又これ位の事ですぬる様な子供ではいけないのじゃないかしらと平素からの扱い等考えめぐらしていた。その時傍でみているK君が目に入った。小さなK君はボールあてごっこ等こわさうだなといった表情、それでも興味をもつてニコニコし乎ら次第に近づいて来たのです。私は軽くK君に当てました。Kちゃん当つた、こちらよ」と声をかけて遊びをどんどんつづけました。K君は仲間扱いされて急に活気づき元気に参加出来ました。その中T君も次第に友達の喜々とした声に興味をとり戻し

目はボールを追い始めました。子供の投げたそれ玉がT君の足に当たりました。「さT君こっち」はつかしそくに遊びに戻ったT君、私もさっきからの気がかりがはれ「さ始まった」という新鮮さと喜びを感じました。

新学期四月の遠足はすぐ近くの城山の麓の動物園だった。私にとつては初めての場所、多くの子供達にとつてすでになじみの場所だ、しかし入園後半月、やっと顔なじみのお友達と一緒に、嬉しくもあり、よそ行きでもある。子供達も父兄も、そして私もお辨当をたのしんだ丈で帰ってきました。私は動物園や草原を存分楽しみたかった。子供達もそうだった。一週間の後、全く突進的に園外保育に出掛けました。広い若草、広い青空一段と素晴らしい。クローバつみをしたり、ころがったり、かけっこしたり、歌ったり、遠足の日の分も遊んでいる子供達。以来、園外保育が楽しみになってよく出掛けます、或る時は城山の上から海や町、舟や汽車、紅葉した木々に心を奪われる。絵本やお庭を通してより、より多くの豊かな自然の中で伸び伸びと馳けまわり、楽しい発見を経験し、青空と緑の中で休息する事これらが真直まぢかに子供達の成長につながる事を何より頼もしく思います。

X X X  
以上の中から、失敗した保育、うまくいった保育が掴める

かどうか。私自身両者は切り離せない場合が多い様に思っております。失敗を覚知し乍ら続ける事はないでしょう。という事は知らずに過して居るという全く危険な事を物語っています。しかし私達は失敗をみつけると善後策をとるものです。失敗をうまく転移させる事が出来れば、之れもうまくいった保育といえましよう。更に失敗で得た経験を次に明日に生かして成功を得る事も多いでしょう。失敗は成功のもとという言葉があります。

しかし私達が更に考えなくてはならないのは繰返す事の出来ない人生の幼児期の教育に当たっている事です。出来得れば失敗なくして成功を得たいと願うものです。

成功とは、「力」対象、物事を理解し適切な準備をなし得る力とたゆまぬ努力があつてこそ得られるものだと思います。之れを保育について考えますと、幼児の理解―一般的な幼児に併せて現在対象に置かれた幼稚園の幼児や環境―とそれに立脚した(適切な)準備、そして更に深い愛情とによって正しい保育をなし得るでしょう。

今年のささやかな経験をも生かして来年の成功によせ、新しい園児を愛情と理解で以て正しく導き、共に成長して行きたいと希っております。

(香川県丸亀高校附属幼稚園)